

低温、長雨の合い間をぬって播種作業。この30年来最も厳しい方の、今年度の始まりでした。火水土の天与の恩恵を最大限引き出させて頂く為、最良の方策を最適の時期に判断ミスなく施手できるよう自然界と一体となる生活リズムを心がける事が、一切の施肥、投農薬に頼らない私共無肥料自然農法実践者の唯一の生きる道です。

大自然に心身を萎ね、観察を続ける中、草々も含めた植物の特性の効果的活用により、相当な勢いで、自然力は増加してくる事や、しばらくは無肥料で栽培困難と思えた土壌でも短期間に工夫次第では、復原が可能な程、宇宙間の生成化育のエネルギー（火素エネルギー）は増量しているという実感を覚えます。

一般的に土地がやせてくると生えてくると言われるスギナという雑草があります。一端姿を見せると、地下茎でもってすごい勢いで増えていきます。この30年、無肥料の全面積に”ここは肥料成分がないぞよ”と言わんばかりに、ほとんどの畑に次々侵入してくるこの草をにがにがしく見ていたものでした。

しかし、植物の根こそ、様々な要素を取り込んで、地力を活性化してくれる事に気づき、この5年じっくり観察していますと、ほぼ絶やす事は不可能で爆発的に増えていくスギナの中にうずくまるように育っている豆類の姿を見てみますと、年々たくましく、スギナと競うように成長している事に気がつきます。一株の豆のそばに、何十本も生えているスギナを取り除いてあげる事は、大辺ですが、本当に必要があってやせかけている土を蘇生させるために繁茂してくれている事に気がつかされます。やせかけている土地でこんなにスギナを増殖させるエネルギーはどこから湧き上がってくるのか、極めて不思議な感じを持たされます。

又、山林を耕地化する構造改革事業で、何万年もかかってできた土を破壊し、火山灰がむき出しになってしまった土地を再生させる為に緑肥用クローバーを一年間育てても、草すらなかなか育たなくなってしまう土壌では、空間土中の様々な要素を取り込んで、地下茎が土中にはうのが精一杯のようです。先ほどのスギナが姿を見せ始めた1年目地下茎を伸ばし、2年目以降爆発的に増殖し、土壌活性化していく原理を応用し、1年で終了させず、そのまま越冬して、1年間かけて育った地下茎にもう1年ゆだねてみましたところ、2年目の地上部の成長のすさまじさは、1昨年前は草すら生えなくなりかかった土地とは、とうてい思えない素晴らしい成長でした。

本年は更に1年で成長したクローバーの地下茎を生かしくローバーとは違った根粒菌要素を取り込める豆太郎（カラスのエンドウ＝満州開拓の救世主となった緑肥）と、センチュウを排除する特性を持った野生種えん麦ヘイオーツを混播し、デスクハローで覆土して、3者の結合力による2年越しの相乗的土壌活性化実験に貪欲に取り組んでみたいと思います。

大事な事は、信念と工夫により、大自然の復原力は、かなりのところまで引き出せる時となりつつあるという事だと思えます。

一方で土壌活性期間中、植物、益草を最大限に繁茂させて頂く努力をし、又一方で栽培期間中は、如何に効率よく、作物を主役たらしむべく、除草技術を開発するかが今後、全国、全世界に普及していくカギがあります。今年のように播種期の低温長雨から、成長期は一転して、高温、干ばつとなっている年は、工夫次第で先手先手で機械技術を活用して順調に除草できていますが、一方春先無理して播種し、固まった土を柔らかくしてあげる行程を入れたり、天気予報では全くない天与の雨を地域的に頂かなければ無肥料の私共の世界では、さっぱり成長許されません。

お蔭様で干ばつで、只々水分や成長要素を求めて根が十分伸びきった頃、節々で予報になかった局地的雨を許され、かなりのところまで、復活させていただいております。9月の体験見学会時に、九州、関西、中部、関東からの皆様に御説明させていただきます。

面積7町歩のじゃがいもの場合は、通常年4回の機械工程で、手除草なしの技術はできてますが、異常気象下の今年度、播種後と6月20日の局地的に頂いた恵みの夕立後の2回、根張り、地温を上げるため、土を柔らかくする行程を入れました。

又、10町歩の豆類には従来、最初の株間ハローを含めて3度のうね間機械除草と株間手除草、最後に培土という行程でした。今年うね間機械除草の直後直後に、昨年開発した株間機械除草を導入し、手除草部分をほとんど省略化できる技術体系ができて、新たな普及の福音となっております。

しかしながら、エンジン、玉ねぎ等一方で相当地力アップして副産物として草種も残り、部分的に機械も導入しながらも、相当に人手を用する作物は、昔除草剤のない時代農業に従事していた町内の60歳すぎの奥様方をお願いしております。そのお世話にあたらせて頂いていた妻が昨年秋、肩、胸、腕の付け根を機械打撲し、この30年来始めて休養を余儀なくされ、昨年の予想では今年は皆さんの先頭に立って除草できる状況にはありませんでしたが、冬の間、種子いも選別しながら、あえて、腕を自由に使えるリハビリ代わりに重いも箱を持ち上げる作業に取り組み奇跡的に今年も又長年の自然界と一体となれる喜びをもって培ってきた除草技術で、流れるように手早く皆様の先頭に立たせて頂く姿を見て、神と自然界の恩恵に心から感謝申し上げた次第です。今回は観察と、技術開発の具体的な面での御紹介で、大変長くなってしまいましたが、長年の課題を克服し、今後に明るい見通しが発見でき、この想いを是非皆様にお伝えさせて頂きたく、喜びの発表となった次第です。

7月18日師匠の法要に上京し、新宿伊勢丹さんが、無肥料自然農法を北海道物産展に8月31日から9月6日まで取り上げていただく打ち合わせを、19日に決定し、本日20日は父の100日祭を早朝とり行わせて頂きました。父との自然農法の未来を語り合った思い出をたどりながら本年度の途中報告にかえさせて頂きます。